



OMURA CITY

大 村 市 市 勢 要 覧 2 0 2 4

しあわせ実感都市 大村



熱気溢れる「夏」

夏越総踊り



いろどりの「春」

大村公園

発刊のあいさつ

大村市長
園田 裕史



大村市は、昭和17年2月11日に1町5村が合併して誕生し、今年で市制施行82周年を迎えました。

海上空港である長崎空港や高速道路インターチェンジなど、交通アクセスに優れた大変住みやすいまちであり、県内自治体の中で最も高齢化率が低く、人口が50年以上増加し続けている唯一の都市として発展を遂げています。令和4年9月には西九州新幹線が開業し、4キロメートル圏内に空港、高速道路インターチェンジ、新幹線駅の高速度交通が集約される高い交通利便性を有するまちとして、さらなる発展が期待されています。

本市の歴史は古く、日本初のキリシタン大名・大村純忠は、初の公式ヨーロッパ訪問団「天正遣欧少年使節」をローマに派遣しました。また、大村藩は幕末勤王派に属し、近代日本の礎を築いた幾多の偉人を輩出してきました。

一方、「日本さくら名所100選」の地に選出された大村公園では、春は国指定天然記念物であるオオムラザクラをはじめ、約2千本の桜が咲き誇り、多くの観光客でにぎわいます。初夏には、約30万本のハナシユウブが見頃を迎え、花のまち大村を彩ります。

これからも、赤ちゃんからお年寄りまで、市民全ての皆さまが大村市で生まれて、成長して、暮らして、住み続けて、最期を迎えたいと想えるようなまちにするため、「市民一人ひとりが一つになった『ONE OMURA』のまちづくり」の実現に、全身全霊で取り組みます。

令和6年2月

～行きたい、働きたい、住み続けたい～



おおむらロードレース大会



福重梨(フルーツの里ふくしげ)

もくじ 大村市市勢要覧

大村の…

31	30	29	28	27	26	24	22	21	20	19	18	17	15	14	12	11	10	8	7	6	4
ポートレース大村	財政	地域コミュニティの活性化・男女共同参画の推進	市議会	環境対策	新幹線を活かしたまちづくり	都市計画	観光	商業	工業	農林水産業	防災・防犯対策	スポーツ	福祉	教育	子育て	国際・地域間交流	歴史と文化	M A P	概況	自然	まちづくり

大村市の将来像

～行きたい、働きたい、住み続けたい～

しあわせ実感都市 大村

基本目標①

人を育むまち

- ・子育てしやすいまちづくり
- ・豊かな学力と生きる力を育む教育の充実
- ・文化の振興と生涯学習の充実
- ・国際・地域間交流の推進

基本目標②

健康でいきいきと暮らせるまち

- ・健康づくりの推進と医療体制の充実
- ・高齢者が暮らしやすいまちづくり
- ・障がい者が暮らしやすいまちづくり
- ・暮らしのセーフティネットの充実

基本目標③

安全・安心なまち

- ・災害に強いまちづくり
- ・消防・救急体制の充実
- ・交通安全と消費者保護の推進
- ・犯罪のないまちづくり

基本目標④

活力に満ちた産業のまち

- ・魅力ある農林水産業の振興
- ・活力ある商工業の振興
- ・企業誘致の推進と新たな雇用の創出
- ・歴史や自然を活かした観光のまちづくり

基本目標⑤

機能的で環境と調和したまち

- ・コンパクトで暮らしやすいまちづくり
- ・道路網の整備と公共交通の利便性の向上
- ・快適で暮らしやすい都市環境の整備
- ・環境にやさしいまちづくり

基本目標⑥

持続可能な行財政運営と市民協働の推進

- ・効率的で開かれた行政運営の推進
- ・健全な財政運営の推進
- ・地域コミュニティの活性化とみんなで取り組むまちづくり
- ・お互いを尊重し、誰もが活躍できる社会づくり

本市は、海と山に囲まれた豊かな自然環境と、交通の要衝としての都市機能が調和する中で、これまで県央の中核的な都市として着実に発展してきました。

全国的に人口減少が進む中、本市では人口が増加しています。令和4年には西九州新幹線が開業するなど、高速交通網の整備も進んでおり、これをまちづくりの好機と捉え、さらなる市の発展と人口増加を見据えたさまざまな施策を推進していかなければなりません。

また、少子高齢化や経済のグローバル化など社会情勢が大きく変化する中で、地方でも子育て支援の充実、地域社会のにぎわい創出、安全・安心なまちづくりなど、魅力ある地方都市の実現に向けた新たな取り組みが求められています。

このため、行政運営の基本指針として、**「第5次大村市総合計画」**において、本市が目指す将来像の「**行きたい、働きたい、住み続けたい**」しあわせ実感都市「**大村**」を目指し、市民の皆さまの多様なニーズに応えながら、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もがしあわせを実感できるまちづくりを進めます。



大村は笑顔がいっぱい

大村のまちづくり

鈴田地区(どん牛山)から大村市街地を望む



人口10万人を目指して

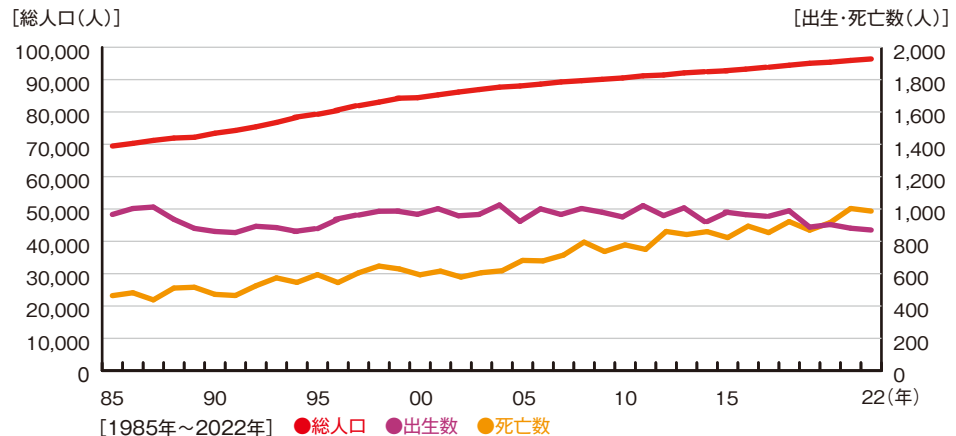
本市はこれまで、空港や高速道路など高速交通の要衝としての充実した都市機能を背景に、快適で暮らしやすいまちづくりや子育て支援の充実などに取り組んできました。その結果、県内13市で唯一人口増加を続けています。しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所によると、本市も2025年をピークに人口減少に転じると推計されています。

今後、さらなる人口増加を図るためには、これまでの取り組みをさらに充実させ、定住促進とともに、進学・就職に伴う若者などの流出を抑制する必要があります。

このため市は、2025年に人口10万人を目指す「大村市人口ビジョン」、**「大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略」**に基づき、新工業団地整備による雇用の確保や新幹線を活かしたまちづくりなどに取り組み、「行きたい、働きたい、住み続けたい」まちの実現に向けて、住み心地のよい魅力あるまちづくりを進めています。

人口推移

総人口は、自然増と社会増により増加を続けてきましたが、徐々に鈍化しつつあります。また、これまで出生数が死亡数を上回ってきましたが、高齢化を背景に死亡数の増加が続き、2020年には死亡数が出生数を上回り、自然減となりました。



野岳湖公園と郡岳



山と海に囲まれた豊かな自然

多良山系を東に仰ぎ、西に波静かな大村湾を望む本市には、自然豊かな景勝地が数多くあります。

多良山系の麓にある野岳湖は、大村の鯨長者といわれた深澤儀太夫勝清が多額の私財を投じて築造した人造湖です。その周辺は、野岳湖公園としてキャンプ場やサイクリングロードが整備され、多くの利用客でにぎわいます。

また、標高330メートルの琴平スカイパークは、雄大な山並みを背景に、眼下には市内はもちろん長崎空港や大村湾、遠くは雲仙や西海方面を一望できます。園内には、楽しい遊具も充実しています。

さらに、黒木溪谷には郡川砂防公園が整備され、納涼と紅葉の名所として知られており、夏には川遊びや森林浴、秋には美しい紅葉が楽しめます。

そのほか、どん牛山展望所は、市街地と大村湾に浮かぶ長崎空港を間に望める穴場スポットで、春にはサクラのトンネルとあわせて景色を楽しめます。

豊かな自然に囲まれた本市は、心癒されるスポットがたくさんあります。



どん牛山(陰平町)からの夜景



黒木溪谷

大村の概況

市公式
マスコットキャラクター



おむらんちゃん
平成24年2月誕生

市の木



イチイガシ
平成元年指定

市の花



オオムラザクラ
昭和47年指定

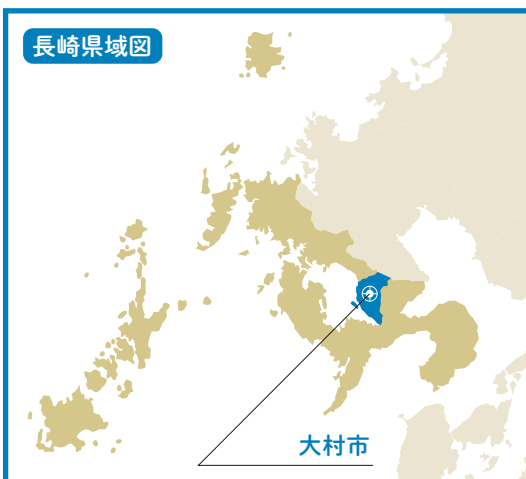
市章



昭和23年制定

県央の中核都市として発展

市制施行	昭和17年2月11日
人口・世帯数 (令和5年12月末日現在) <small>※住民基本台帳による</small>	98,658人 46,002世帯
面積	126.73km ²
標高(市内の最高地点)	1,076m(経ヶ岳)
降水量	1,811.1mm(平年値)
平均気温	17.3°C(平年値)



長崎県の中央部に位置する本市は、東に多良山系、西に大村湾を臨み、大村公園の国指定天然記念物オオムラザクラをはじめ、サクラヤハナシヨウブ、ヒガンバナなど、さまざまな花が季節を通して咲き誇る、自然豊かなまちです。

大村の歴史は古く、戦国時代、日本初のキリシタン大名・大村純忠は、天正遣欧少年使節をローマに派遣し、幕末・維新の激動期には、大村藩が新政府側として活躍し、多くの人材を輩出しました。

本市は、世界初の海上空港である長崎空港、長崎自動車道インターチェンジ、さらに令和4年9月に開業した西九州新幹線を有し、交通アクセスの利便性を活かしたまちづくりが進められています。

市制を施行した昭和17年当時の人口は3万9572人でしたが、現在の人口は9万8千人を超えており、県央の中核的な都市として発展を続けています。



市役所本庁舎(昭和39年建設)



歴史に触れる所

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ① 鈴田牟跡 | ⑬ 天正遣欧少年使節顕彰之像 |
| ② 長与専斎の旧宅 | ⑭ 放虎原殉教地 |
| ③ 大村彦右衛門家墓所 | ⑮ 楠のある通り |
| ④ 玖島城跡 | ⑯ 第21海軍航空廠本部防空壕跡 |
| ⑤ 五教館御成門 | ⑰ 工具養成所正門 |
| ⑥ 石井筆子の像 | ⑱ 洞塚跡 |
| ⑦ 上小路武家屋敷通り | ⑲ 首塚跡 |
| ⑧ 旧楠本正隆屋敷 | ⑳ えんたいどう 掩体壕 |
| ⑨ 旧円融寺庭園 (三十七士の碑) | ㉑ 大村純忠史跡公園 |
| ⑩ 草場小路武家屋敷通り (五色堀) | ㉒ 今富のクリシタン墓碑 |
| ⑪ 本経寺 大村藩主大村家墓所 | ㉓ 田下のクリシタン様式墓碑 |
| ⑫ 妻子別れの石 | ㉔ 長崎街道松原宿 (旧松屋旅館) |
| ⑬ 獄門所跡 | ㉕ 仏の谷 |
| ⑭ 慰霊塔公園 | ㉖ ミライon (図書館・歴史資料館) |

大村のMAP



歴史・文化のまち

大村の歴史と文化

大村が生んだ偉人

福祉と教育の先駆者



石井 筆子

衆議院議長を務めた



楠本 正隆

三十七士の剣の達人



渡辺 昇

明治維新達成に活躍



渡辺 清

「歴史」

大村の歴史は古く、黒丸遺跡や富の原遺跡、竹松遺跡に見られるように、太古から人々の生活が営まれてきました。

中世には、大村氏が台頭し、大村に城下町を築きます。戦国時代の領主大村純忠は日本初のキリシタン大名となるとともに、南蛮貿易を進めます。純忠は、長崎を貿易港として開港し、後にイエズス会に寄進したり、天正遣欧少年使節をローマへ派遣するなど、歴史に残る偉業を成しました。

江戸時代、幕藩体制のもと、大村氏が治める大村藩は、2万7千石の城下町として栄えます。海外の文物を運ぶ長崎街道が通り、宿場町としてもにぎわいました。潜伏キリシタンが発覚した「郡崩れこおりぐずれ」もありましたが、大村藩では改易転封もなく、明治まで続きました。

幕末には、渡辺清・昇兄弟や楠本正隆らが各藩の志士と連携を強め、早くから勤王を掲げ、薩摩藩や長州藩と協

「文化」

力し倒幕に活躍します。大村藩が薩摩・長州・土佐に次ぐ3万石の褒美を賜ったことは特筆されます。

明治以後は、陸軍や海軍航空隊が置かれ、都市の整備が進み、海軍航空廠の設置による人口増などから昭和17年に大村市が誕生しました。

「シーハットおおむら」は、市民のスポーツ活動と文化活動の拠点として幅広く活用されています。

また、「長崎OMURA室内合奏団」は、県内初のプロ合奏団として、市民や子どもたちに対してのみならず、市外にも活動の場を広げています。

「大村の郡三踊しんさんおどり（寿古踊・沖田踊・黒丸踊）」は、約500年の歴史があり、寿古町、沖田町、黒丸町にそれぞれ伝わる国の重要無形民俗文化財に指定された民俗芸能です。令和4年に沖田踊・黒丸踊は、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

国指定重要無形民俗文化財「大村の郡三踊」



黒丸踊



沖田踊



寿古踊

大村の国際・地域間交流

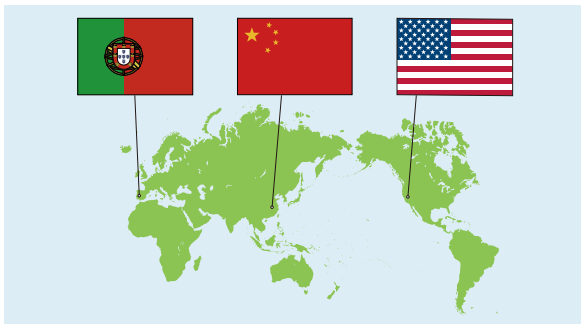
天正遣欧少年使節顕彰之像(森園公園)



国際・地域間交流

本市では、国内・海外合わせて6都市と、文化の交流などを目的とした姉妹都市・友好(交流)都市提携を結び、交流しています。また、天正遣欧少年使節ゆかりの地関係市町とも交流しています。さらに、大村市国際交流プラザを中心に、市内に住む日本人と外国人が互いの文化や考え方を理解できるよう、国際交流イベントや講座など、多文化共生に向けた取り組みを行っています。

姉妹都市	提携年月日
秋田県仙北市(旧角館町)	昭和54年7月18日
兵庫県伊丹市	昭和55年4月17日
ポルトガル・シントラ市	平成9年8月21日
アメリカ・サンカルロス市	平成24年7月20日
友好(交流)都市	提携年月日
中国・上海市閔行区	平成5年12月3日
島根県飯南町	平成27年8月3日



ポルトガル・シントラ市とアメリカ・サンカルロス市とは、相互にホームステイ交流、中国・上海市閔行区とは、公式訪問やオンライン交流などを行っています。



花まつりの時期に3市1町の合同物産展を行い、仙北市とは双方の濱田謹吾銅像建立記念式典、伊丹市とは物産展への出店、飯南町とは青少年交流ツアーなどで交流を深めています。



アメリカ・サンカルロス市へのホームステイ(2019年)



大村市国際交流プラザ(本町・プラットおおむら内)

子育てしやすいまちづくり

地域子育て支援センター(おむらんど)



こどもセンターでは、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない伴走型支援として、妊娠期には出産に関する相談を受けるほか、妊婦健診や産後健診費用の助成により妊婦をサポートし、産後は、産後ケア事業や乳児全戸訪問により、母親や乳児の健康を把握し、離乳食教室や乳幼児相談・幼児健診などを通じて、子どもの成長に応じた助言・指導を行っています。

令和6年3月には、大村市ポータルアプリ「おむすび。」の運用を開始し、子育てに関する各種相談予約や申請手続のデジタル化、予防接種や成長記録など母子健康手帳の機能、プッシュ通知機能を搭載することにより、さらなる子育てサポート体制の充実に取り組めます。

また、子育て家庭が安心して子どもを預けられるよう、教育・保育施設や放課後児童クラブを整備するとともに、**幼児教育・保育支援センター**による巡回相談や研修などの支援を通して市内全体の教育・保育力の向上を図っています。加えて、一時預かりや延長保育、病児保育、



赤ちゃん訪問で体重測定



こどもセンター(本町)

大村の子育て

母子健康手帳セット



幼稚園・保育園等施設数

(令和5年10月末現在)

幼稚園	(私立)	3
保育園	(公立)	1
	(私立)	19
認定こども園	(公立)	1
	(私立)	15
地域型保育事業		15
地域子育て支援センター		11
地域子育て支援事業(こども園)		8
放課後児童クラブ	(父母の会)	18
	(社会福祉法人)	30
	(NPO法人)	7
	(その他法人)	2

市オリジナル絵本



地域子育て支援センターなど、多様な子育て支援サービスを展開しています。

さらに、家庭相談員や母子父子自立支援員が子育てに関するさまざまな相談支援を行っており、特に、ヤングケアラー支援については、全国の自治体で初めて日本財団と協定を締結し、早期発見・早期支援に取り組んでいます。

保育園などへの入所にあたっては、こどもセンター内に保育コンシェルジュを配置し、相談対応を行っています。

また、乳幼児から高校生世代までの子どもの医療費助成、母子・父子家庭などの福祉貸付金制度、低所得世帯の学用品費助成などに幅広く取り組んでいます。

さらに、大村市婚活サポートセンターにおいて、結婚を望む独身者の出会いのサポートを行っています。

これからも「子育てしやすいまちづくり」を目指して、切れ目のない支援に取り組んでいきます。



婚活サポートセンター(プラットおおむら内)



保育コンシェルジュ

大村の教育

「教育のまち大村」を実現するための3つのキーワード

豊かな学び

学校や家庭・地域での学びや経験、地域に根ざした知識・技能、「心」が伴う思考力や判断力、生涯にわたって学ぶ力などを伸ばしていきます。

確かな育ち

自立と協働を図るために、主体的で能動的な学びを広げていきます。

多様な感性

様々な人の在り方を理解し、尊重したり、その人にあわせた行動をとったりする感性を磨いていきます。

社会全体

ささえ

はぐくみ

学力向上だけでなく、文化活動やスポーツ、地域の伝統行事などにも積極的に取り組む子どもたちを育成する。生涯にわたって学習する意欲や郷土を愛する心を育む。

学校、家庭、地域が同じ目標をもち、連携や協働を通じて子どもたちを支える。市民の学習活動や文化活動を支える。

つなぐ

学びや育ちの連続性を大切にし、教育における校種間の連携はもとより、ふるさと大村の発展や創生などを大事にする人々に子どもたちをつなぐ。伝統や歴史資料を未来へつなぐ。

すべての子どもと地域のミライを
はぐくみ、ささえ、つなぐ、「教育のまち大村」

「Society 5.0」「SDGs」など社会の大きな変化の中で、学校での学習だけではなく文化活動やスポーツ、地域の伝統行事にも積極的に参加し、「やればできる」という日々の小さな自信や達成感を得ることで、ミライにつながる大きな夢や志をもち、将来にわたって社会の一員として、たくましく生き抜く人間に育っていただけるよう、施策を展開しています。

また、市民がより豊かな人生を送れるように生涯学習活動、文化活動などの支援を行うとともに、伝統文化を受け継ぎ、郷土を愛する教育を推進していきます。

これらを通して、「日本の未来や新たな価値を創造し、社会を生き抜く人間」「生涯にわたって学び、大村を愛し、大村を担う人間」を育成し、「教育のまち大村」を実現するため社会全体で、豊かな学び・確かな育ち・多様な感性を「はぐくみ」「つなぐ」「ささぐ」に取り組んでいきます。



一人一台タブレットの活用(GIGAスクール)



ミライon図書館(長崎県立・大村市立一体型図書館)

大村の福祉

市立大村市民病院(古賀島町)

健康でいきいきと暮らせるまち



「保健・医療・健康」

本市は、健康でいきいきと暮らせるまちの実現に向け、医療体制の充実を図りながら、健康づくりの推進に取り組んでいます。

市立大村市民病院は昭和26年に診療を開始しました。平成20年から指定管理者制度を導入し、公設民営で運営しています。平成29年には建て替えを行い、令和3年に開設70周年を迎えました。地域医療の中核として、市民の皆さまのニーズにこたえられる医療の充実を目指しています。

また、夜間の緊急時に受診できるように、**大村市夜間初期診療センター**を設置。休日にも対応できるように民間医療機関、市立大村市民病院、国立病院機構長崎医療センターと一次から三次救急の連携を強化しています。

その他、楽しみながら健康づくりに取り組めるよう、人材育成や情報発信などの環境づくりに取り組んでいます。

市民がいきいきと暮らせるよう、地域住民や関係団体と連携・協力しながら、健康づくりの推進に努めます。



健康づくり推進員による健康体操の様子



大村市夜間初期診療センター(こどもセンター内)

大村の福祉

市内介護保険サービス提供事業所数

(令和5年11月1日現在)

居宅介護支援	30
訪問介護	27
生きがい対応型訪問サービス	24
軽度生活支援員派遣サービス	4
(介護予防)訪問看護	15
(介護予防)訪問リハビリテーション	10
通所介護	27
生きがい対応型通所サービス	43
高齢者活動支援サービス	8
(介護予防)通所リハビリテーション	13
(介護予防)短期入所生活介護	8
(介護予防)短期入所療養介護	4
(介護予防)福祉用具貸与	7
(介護予防)特定福祉用具販売	7
(介護予防)特定施設入居者生活介護	3
(介護予防)認知症対応型通所介護	8
(介護予防)認知症対応型共同生活介護	21
(介護予防)小規模多機能型居宅介護	8
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2
地域密着型通所介護	16
地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	2
介護老人福祉施設	3
介護老人保健施設	2

市内障害福祉サービス等事業所数

(令和5年11月1日現在)

居宅介護	19
重度訪問介護	18
行動援護	1
同行援護	9
短期入所	14
生活介護	28
施設入所支援	3
療養介護	1
グループホーム	16
自立生活援助	1
自立訓練(生活訓練)	3
就労移行支援	5
就労継続支援(A型)	4
就労継続支援(B型)	25
指定計画相談・障害児相談支援	14
児童発達支援	26
放課後等デイサービス	45
保育所等訪問支援	13



人生ノート

さらに、安心して本人・家族が望む最期を迎えることができるように、医療と介護の連携強化や、人生ノートの配布・書き方講座の開催など、ACP(人生会議)を推奨する取り組みを行っています。



介護予防のための筋力アップ体操

「高齢者福祉」

高齢者ができる限り住み慣れた地域で継続して生活できるように、本人・家族のニーズに応じて医療や介護・看護、生活支援、住まいを組み合わせて提供できる地域包括ケアシステムの充実に努めています。

具体的には、高齢者が身近な地域で参加できる通いの場や老人クラブなどを通じて、介護予防や地域の支え合いを強化できるようなまちづくりを推進しています。



手話講座の様子

また、地域密着型サービス施設の計画的な整備や、介護人材の確保・育成への取り組みといった介護サービスの基盤整備を推進するなど、高齢者が暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます。

「障がい者福祉」

障がいのある人もない人も共に支え合い、心豊かに安心して生活できるまちづくりを目指し、共生社会の実現に向けて取り組んでいます。

障がいのある人が自立した生活を送るためには、相談の場や障がい特性に応じたサービスを充実させることが重要です。

障がい者やその家族から相談を受けた生活支援を行う場所として、障害者生活支援センター「ラフ」と精神障害者地域生活支援センター「ラム」を設置し、相談支援体制の充実・強化に取り組んでいます。

また、障がいや障がい者への理解と関心を深めるため、手話奉仕員や要約筆記者の養成講座、各種手話講座などを行い、意思疎通支援の充実に取り組んでいます。

大村のスポーツ



市民体力測定会



市民ウォーク



ロードレース大会



市民スポーツ大会

競技スポーツ・生涯スポーツの推進

市内のスポーツ施設一覧

- ◎シーハットおむら
- ◎総合運動公園
- ◎古賀島スポーツ広場
- ◎市民プール
- ◎屋内プール
- ◎陸上競技場
- ◎野球場
- ◎補助グラウンド
- ◎郡中学校運動場夜間照明施設
- ◎森園運動広場
- ◎北部運動広場
- ◎南部運動広場
- ◎鈴田運動広場
- ◎テニスコート
- ◎森園ファミリースポーツ広場
- ◎アーチェリー場
- ◎武道館
- ◎弓道場
- ◎児童体育館
- ◎黒木山小屋

競技スポーツや生涯スポーツ活動の普及振興を目指して、各種団体と連携し、取り組みを進めています。

市民が参加できる「ロードレース大会」や「市民ウォーク」「市民体力測定会」など、子どもから高齢者まで幅広く交流できるスポーツイベントを開催しています。

また、市民相互の交流と親睦を図るとともに、楽しい健康づくりとスポーツ人口の増加を目的に「市民スポーツ大会」を開催しています。

市内には、用途に応じた多くのスポーツ施設があります。なかでも「シーハットおむら」は、スポーツをはじめ、さまざまなイベントに利用され、トレーニングルームやフィットネスルームも備えるなど、多くの市民に親しまれています。

また、現在も整備が進む総合運動公園は、多目的広場（運動場4面）、テニスコート（砂入り人工芝6面）、グラウンドゴルフ場が供用され、市内最大の遊具エリアを誇る「ぼうけん広場」など、ファミリーで楽しめる施設も併設されています。



総合運動公園のテニスコート(黒丸町)



古賀島スポーツ広場(古賀島町)

大村の防災・防犯対策



大村市総合防災訓練の様子



安全・安心な暮らしを

火災や自然災害などから市民の生命と財産を守るため、身近な地域の消防体制を支える消防団の充実強化を図り、消防署や関係機関と連携しながら、消防力の強化に取り組んでいます。

特別警報級の暴風や大雨などに備え、水防訓練や防災訓練を実施するとともに、「防災マップ」を配布し、「自らの命は自らが守る」という意識の徹底や災害リスク、避難行動の理解促進に努め、地域防災体制の充実や防災意識の高揚を図るため、自主防災組織の結成・育成や防災知識の普及啓発を行っています。また、災害時の非常食や飲料水、衛生用品などの備蓄品の確保に努めるとともに、備蓄倉庫などの施設の整備にも取り組んでいます。

さらに、警察や関係機関・団体と連携し、広報、各種啓発活動を行いながら、交通事故や犯罪のないまちづくりの推進に取り組んでいます。

防災行政無線の継続的な維持管理を行い、防災ラジオの普及促進やSNSなどの情報媒体の活用を行うなど、防災防犯情報伝達体制の充実に努めています。



安全・安心まちづくりキャンペーンのパレード



各世帯に配布した「防災マップ」

大村の農林水産業

ハウス内の快適な環境で育てられた大玉トマト



魅力ある農林水産業の振興

本市は温暖な気候に加え、多良山系の山林と水が豊富で、古くから農業が盛んな地域です。

農業は、本市の面積の約14%を占めている農地で、野菜(トマト、イチゴ、キュウリなど)、果樹(ミカン、ナシ、ブドウなど)、花き(カーネーションなど)、畜産(肉用牛、豚など)、米などが生産されています。いわゆる少量多品目の特徴で、地域の特徴に応じた生産を推進しています。林業は、本市の面積の47%を占めている森林の集約化により、計画的な間伐を進め、森林の保全に取り組んでいます。水産業は、大村湾を漁場とした沿岸漁業が主体で、主なものはナマコ・サザエなどです。

農林水産業者の高齢化や後継者不足などを解消するため、若い人にとって魅力ある産業となるよう各種施策に取り組みます。農業では、担い手の育成と確保を行い、スマート農業の導入などによる生産性の向上と多収量化などを支援することにより、所得向上を目指しています。林業では、作業環境改善のため、高性能林業機械を導入するとともに、森林環境譲与

税を活用した森林管理、人材育成、木材利用などにより、林業経営の強化に取り組んでいます。水産業では、漁場環境の保全とあわせて、種苗放流による資源管理型漁業を推進しています。また、大村産水産物のブランド化など魅力発信に努めています。



優れた肉質の長崎和牛



大村産ナマコブランド「琴俵」



高性能林業機械による作業

大村ハイテクパーク・オフィスパーク大村(全景)



先端技術の発信基地

「大村ハイテクパーク」「第2大村ハイテクパーク」「オフィスパーク大村」は、東に多良山系、西に波静かな大村湾を臨む丘陵地に位置する工業団地です。

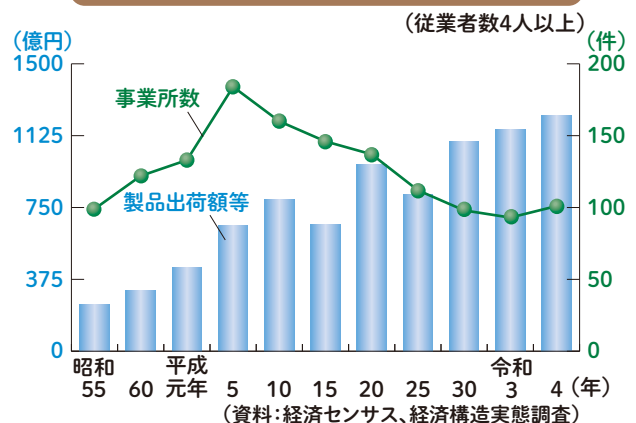
団地内には緑豊かな公園や、公共下水道、電気、通信ケーブルなどの設備があり、長崎空港や長崎自動車道大村インターチェンジ、木場スマートインターチェンジ、西九州新幹線新大村駅に近く、人・もの情報の交流拠点として、最適な立地環境にあります。

これらの工業団地には、半導体や精密空調装置、自動車部品、液晶ディスプレイ、耐震マシ、金型製造加工、その他さまざまな分野での先端技術を有する企業が立地し、大村の産業をけん引しています。オフィスパーク大村には、産業界支援中核施設(株)アルカディア大村が立地し、また、大村ハイテクパークには、長崎県工業技術センター、長崎県産業振興財団、長崎県建設技術研究センター、長崎県環境保健研究センターが立地しており、ハードソフト両面から技術の高度化を支援しています。



第2大村ハイテクパーク

事業所数と製造品出荷額等の推移



大村の商業

にぎわいの創出

「高校生フェス」でにぎわうプラザおおむら(ホール)

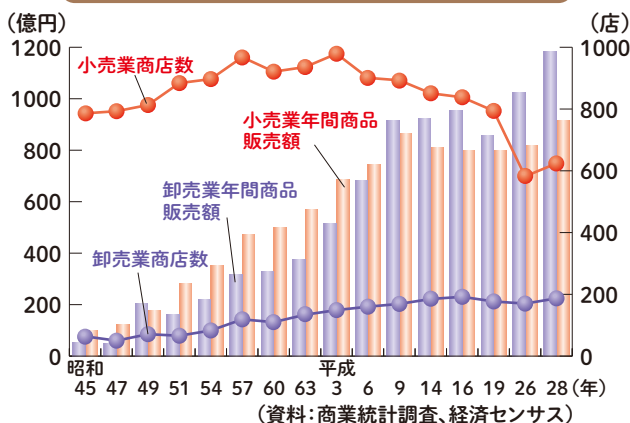


本市の中心市街地は、古くは江戸時代から城下町や長崎街道の宿場町としてにぎわい、これまで商業集積が進み地域の拠点として発展してきました。しかし近年、郊外型商業施設の進出や消費者ニーズの多様化などにより、中心市街地の空洞化が進みつつありました。

この状況を打開するため、JＲ大村駅前の中心市街地で「上駅通り地区第一種市街地再開発事業」に取り組み、平成24年から25年にかけて分譲マンション、賃貸マンション、商業施設「コレモおおむら」が完成オープンしました。また、平成26年に多様な世代の交流拠点として「プラザおおむら」、平成31年に中心市街地複合ビル「プラトおおむら」、令和元年に長崎県立大村市立一体型図書館「ミライオン」がオープンしました。これらの事業により、中心市街地の居住人口が増加するとともに、親子連れを中心とした新たな人の流れが創出されました。

今後、整備されたそれぞれの拠点をつなぐソフト事業の展開により、さらなるにぎわい創出を目指します。

商店数と年間商品販売額の推移



コレモおおむら(東本町)

大村公園の桜のライトアップ



城下町大村 色彩の四季

県内随一の花の名所として知られる大村公園。春を告げる大村公園は「日本さくら名所100選」に選定され、国指定天然記念物「大村神社のオオムラザクラ」をはじめ、ソメイヨシノやクシマザクラなど、約20種類およそ2千本の桜が咲き乱れ、園内をピンク色に染め上げます。

また、同公園内玖島城の長堀・南堀跡には、九州最大級の規模を誇る、約30万本のハナショウブが咲き誇り、優雅で気品ある姿を楽しむことができます。

市街地から一歩足を延ばすと、落差30メートルの滝を有する裏見の滝自然花苑があり、約6千本の世界のシャクナゲが人々の目を楽しませてくれます。

秋になると、市内360度の大パノラマが楽しめる鉢巻山展望所が、多くのヒガンバナで彩られます。

そのほか、自然豊かな多良山系には、「オオキツネノカミソリ」の群生が7月中旬に開花し、鮮やかなオレンジ色の花を咲かせます。

「花のまち大村」は、四季を通じて訪れる人々の心を和ませてくれます。

Hanagoyomi 花ごみ

【大村神社のオオムラザクラ(国指定天然記念物)】

八重桜を2つ重ねたような独特の二段咲きで、花びらの総数は少ないもので60枚、多いものでは200枚あるのが特徴。優美で気高く、里桜中の名桜といわれています。



3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	● ソメイヨシノ						
	● オオムラザクラ、クシマザクラ						
	● シャクナゲ						
			● ハナショウブ				
				● オオキツネノカミソリ			
						● ヒガンバナ	
						● コスモス	

大村の観光

大村歳時記

- ◎長崎街道大村藩宿場まつり…… 2月
- ◎大村のひなまつり…… 3~4月
- ◎おおむら花まつり…… 3月下旬~6月中旬
- ◎しゃくなげ祭り…… 3月下旬~4月下旬
- ◎竹松ゆかたまつり…… 7月
- ◎おおむら夏越まつり花火大会… 8月1日
- ◎おおむら夏越まつり…… 8月2・3日
- ◎野岳湖ウォーク…… 10月
- ◎おおむら健康・福祉まつり…… 10月
- ◎牧場まつり…… 11月
- ◎おおむら秋まつり・グルメフェア… 10~11月
- ◎黒丸踊法養祭…… 11月28日
- ◎おおむらロードレース大会…… 12月



シャクナゲ
(裏見の滝自然花苑)



ハナショウブ
(大村公園)



オオキツネノカミソリ
(多良岳登山道)



ヒガンバナ
(鉢巻山展望所)

大村の特産品



ゆでピー



へこはずしおこし



大村寿司



松原庖丁



大村湾のナマコ



黒田五寸にんじん

国道34号大村諫早拡幅完成イメージ(鈴田峠付近)



将来を見据えた都市像

「都市づくり」

本市は、道路網や上下水道施設などの都市基盤が整う良好な居住環境によって、県内でも有数の住みやすい都市として発展してきました。また、現在も国道34号の拡幅など、大規模なプロジェクトが進行しており、さらなる都市機能の充実が図られています。

さらに、空港、高速道路に加え、令和4年9月に開業した西九州新幹線など、充実した高速交通体系を活用することによるにぎわいの創出や交流機能の向上など大きな可能性も秘めています。

こうした市の発展や成長の一方で、将来的な人口減少や高齢化を踏まえ、これまでのように市街地を拡大するのではなく、既存の基盤施設を有効活用しながら都市機能を集約し、公共交通の利便性を高める「コンパクトなまちづくり」や頻発・激甚化する災害に対する「安全で安心なまちづくり」が求められています。

そこで、令和3年度に「大村市都市計画マスタープラン」および「大村市立地適



一般県道257号・大村外環状線(サンシャインロード)



国道34号久原2丁目交差点付近

大村の都市計画

都市計画道路

令和5年4月1日現在[単位km]

路線数	計画延長	改良済延長	未改良延長	改良率	
18	46.76	36.39	10.37	77.8%	
主要幹線道路	3	22.44	16.24	6.20	72.4%
都市幹線道路	10	16.87	16.07	0.80	95.3%
補助幹線道路	5	7.45	4.08	3.37	54.8%

都市計画公園

令和5年3月31日現在

	住区基幹公園			都市基幹公園		特殊公園	合計
	街区	近隣	地区	総合	運動		
箇所数	38	2	1	1	1	3	46
面積(ha)	6.26	1.60	7.00	21.40	22.10	16.70	75.06

公共下水道

令和5年3月31日現在

計画区域面積	2,933ha
処理区域面積	2,372ha
計画区域人口(A)	95,642人
処理区域人口(B)	88,603人
普及率(B/A)	92.6%

※計画区域面積および計画区域人口には、公共下水道に統合する農業集落排水区域を含む。

用途地域

令和5年3月31日現在

	面積(ha)	割合(%)
大村都市計画区域	5,997	100.0
用途地域	2,344	39.1
住居系	1,378	23.0
第1種低層住居専用地域	365	6.1
第1種中高層住居専用地域	119	2.0
第2種中高層住居専用地域	133	2.2
第1種住居地域	714	11.9
準住居地域	47	0.8
商業系	203	3.4
近隣商業地域	70	1.2
商業地域	133	2.2
工業系	763	12.7
準工業地域	552	9.2
工業地域	147	2.4
工業専用地域	64	1.1
無指定地域	3,653	60.9

正化計画を見直し「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」「安全・安心」のまちづくりを推進することにより、持続可能な都市構造の実現に向けた取り組みを進めています。

【景観づくり】

本市は、緑の多良山系から丘陵地と平坦な市街地まで緩やかにつながり、穏やかな大村湾に面するなど、海、山、川と豊かな自然に恵まれた風光明媚な景観が市民にうるおいとやすらぎを与えてくれています。

こうした良好な景観を守り、育て、創るため、令和4年度に「大村市景観計画」を改訂し「市民をつみ込む」のびのびひろびろとした海と山が連続する大村の景観づくりの理念のもと、特性を活かした景観形成に取り組んでいます。

特に、歴史的な景観を多く残す上小路周辺地区を「景観形成地区」に指定し、住民とともに歴史的な街並みを維持、保全し、景観の特性を活かした街並み環境整備を推進しています。

全ての景観の調和を大切にし、周知・啓発活動や景観形成の活動支援などを総合的かつ継続的に進め、市民・事業者・行政が一丸となった景観づくりに取り組んでいます。



景観形成地区(上小路周辺地区)



森園公園

大村の新幹線を活かしたまちづくり



大村の新幹線を活かしたまちづくり

多様な交流の促進

新大村駅周辺整備イメージ



※提供：大和ハウス工業(株)、(株)日本エスコン、(株)イズミ
※今後の計画により変更になる場合があります。

新大村駅さくら口(東口)で、現在新大村駅前市有地開発事業が進められています。本市は、新幹線開業によって新幹線駅・空港・高速ICがそろい、全国的にも恵まれた高速交通の利便性を有することとなりました。新大村駅の交通結節機能を強化するとともに都市機能の立地に必要な用地を確保し、利便性の高い生活機能の充実や人々の賑わい・交流の創出を図りながら、魅力ある拠点形成を目指しています。

新大村駅前市有地開発事業は、民間事業者主導で進められており、商業区画3区画、集合住宅2区画が計画されています。商業施設については、本市初出店のゆめマートや生活雑貨店、カフェ、フィットネスジム、クリニックなどが令和6年春開業予定です。集合住宅については、分譲マンション2棟合わせて191戸が令和6年秋完成予定です。

また、開発地中央には「くつろぎと賑わいのある」新大村駅公園の整備を市で進めており、令和7年春の完成を予定しています。



開発が進む新大村駅さくら口(東口)

大村の環境対策

ガラスの砂浜(森園公園先)



環境にやさしいまちづくり

本市は、大村市環境基本計画を策定し、環境保全に取り組みなど、環境にやさしいまちづくりを推進しています。

環境センターでは、限りある資源を有効に活用し、持続可能な循環型社会を構築するため、プラスチック製容器包装類個別回収や小型家電リサイクル事業など、ごみの減量化・再資源化への各種取り組みを行っています。

また、耐用年数を迎えるごみ処理施設の建て替え準備を進めるなど、廃棄物の適正処理を推進していきます。

さらに長崎県が第3期大村湾環境保全・活性化行動計画の重点施策として、廃ガラスを使用した浅場(ガラスの砂浜)を造っており、子どもたちが浅場の持つ浄化機能を体感できるような環境学習や、大村湾沿岸一斉清掃を実施するなど環境保全意識の醸成が図られる場所となっているほか、インスタ映えスポットとして、休日には多くの人が訪れる場所となっています。



環境センター(森園町)



大村湾沿岸一斉清掃



身近で開かれた議会を目指して

大村市議会は、市民の代表として選ばれた25人の議員で構成されています。

条例の制定改廃や予算案など市民生活に直接関わる重要な議案を審議・決定するほか、市政一般質問などを通じて、市民の多様な意見を市政に反映させる重要な役割を担っています。

本市議会は、大村市議会基本条例に基づき、執行機関と対等な関係を構築し、住民の福祉の向上と将来のまちづくりのため、二元代表制の一翼を担う意思決定、行政の監視機関として、公平性と透明性を確保し、市民に開かれたわかりやすい議会運営に努めています。

また、デジタル社会への急速な進展、自然災害に対する意識の高まり、少子高齢化社会へ向けて多様化する行政ニーズに真摯に取り組み、政策提言につなげていくことが求められています。

市議会においても、第5次総合計画後期計画に掲げる「『行きたい、働きたい、住み続けたい』しあわせ実感都市大村」を目指し、市民の皆さんと一体となって全力で取り組んでいきます。

本会議中継

- ◎おおむらケーブルテレビ
- ◎FMおおむら※市政一般質問のみ
- ◎インターネット放送
※ブラウザで「大村市議会 インターネット放送」と入力して検索

大村市議会 インターネット放送 🔍

- ◎YouTube
※YouTube内で「大村市議会公式チャンネル」と入力して検索

大村市議会公式チャンネル 🔍



「市民と議会のつどい」の様子

地域コミュニティの活性化・男女共同参画の推進



「地域コミュニティの活性化」

平成23年度に地域の課題を自ら協議し、解決するために、「地域げんき交付金」を創設し各地区の取り組みを支援しています。地域住民が自ら考え、自ら行う環境美化、防災・防犯、郷土芸能などの地域づくりの活動は、地域コミュニティの活性化につながっています。

また、生涯学習や地域活動の拠点である町内公民館の新築や増改築など施設整備への助成を行っています。

さらに、市民が町内会活動などに安心して参加できるよう保険加入の支援などを行っています。

「男女共同参画の推進」

大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」では、「誰もが互いに認め合いいきいきと活躍できるまちをめざして」を基本理念に、男女共同参画の周知啓発のほか、令和5年10月には「大村市パートナーシップ宣誓制度」を導入しました。また、女性のための相談室ではDVや夫婦、家族に関する相談を受け付けています。



講座「女性のための護身術」

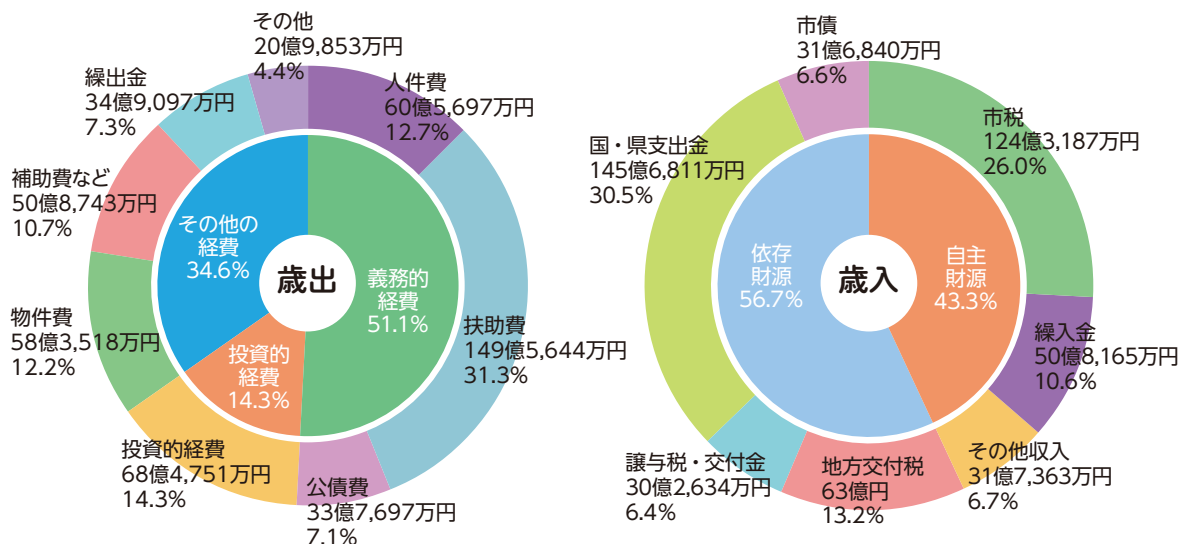


男女共同参画推進事業講演会

財政健全化から財政適正化へ

令和5年度 予算総額

477億5千万円



本市では「財政運営基本方針」を策定し、次の3つを柱として、財政適正化に向けた各種取り組みを推進し、財政健全化での成果の維持と中長期的な視点に立った健全で持続可能な財政基盤の構築に向けて取り組んでいます。

基本方針1 安定した財源の確保
 持続可能な安定した財政基盤構築のため、債権管理の徹底・使用料の見直し・未利用市有地の有効活用に取り組み、財源確保を図ってきました。今後もさらなる効果的・効率的な取り組みを展開し、安定した財源の確保に努めます。

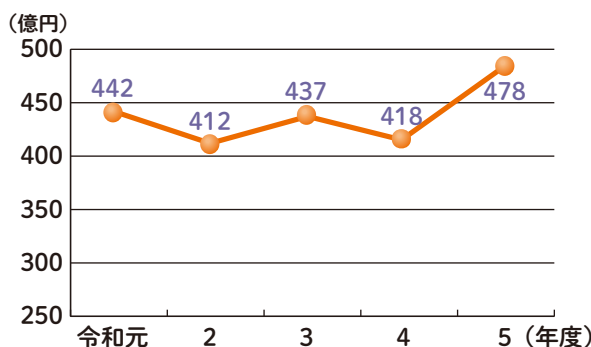
基本方針2 歳出の抑制と適正化
 限られた財源に見合った歳出構造とするため、歳出全般にわたり徹底した見直しを行い、選択と集中により、最少の経費で最大の効果を挙げることに努めていきます。

基本方針3 財政運営の透明性の確保
 予算・決算の状況の公表や、中期財政見通しの公表など、さまざまな財務情報をわかりやすく市民へ公表することで、財政運営の透明性を確保しています。

令和5年度特別会計当初予算

特別会計名	予算総額	前年度比
国民健康保険事業	93億 2,477万円	-0.9%
後期高齢者医療事業	12億 1,763万円	+3.2%
介護保険事業	76億 4,549万円	+0.0%
工業団地整備事業	1億 5,301万円	-30.9%

予算規模の推移 (年度別)



ボートレース大村

大村ボートレース場

ボートレース発祥の地



ボートレース大村は、昭和27年4月6日、全国で初めてモーターボートレースを開催した「ボートレース発祥の地」です。

平成30年9月から全レースをナイターレースで開催しています。

事業の収益は、福祉や教育事業、道路やインフラ整備など、本市の社会基盤や福祉の充実に大きく寄与しており、これまで市の財政に1040億円を繰り入れていますが、特にナイターレース開始以降は431億円超の繰り入れを行っています。

令和4年11月には新たな多世代間の交流拠点として、県内最大規模のスケートボードパークや全天候型ボルダリング設備などを有した「コミュニティパーク Gruun^{グリーン}おおむら」を整備しました。

今後も、さらなる売上拡大を図りながら、市の財政に寄与することはもとより、社会貢献・地域貢献に努めます。



白熱するレース



コミュニティパークGruun(グリーン)おおむら



大村市市勢要覧 2024

〒856-8686

長崎県大村市玖島1丁目25番地

☎0957-53-4111

city.omura.nagasaki.jp

2024年(令和6年)2月発行

大村市企画政策部広報戦略課

【大村市公式SNS】

